

伊豆ヶ岳ハイキング

(仮)Q ナゴミ・ハイキング同好会 服部

ハイキング部がなくなって初めて「(仮)Q ナゴミ・ハイキング同好会」の11月ハイキング「伊豆ヶ岳」が行われた。参加者はハイキング部のおなじみ8人組となった。結局、今までのハイキング部と変らないじゃないか、ただ単に狭山・入間・所沢・3班の企画の輪番がなくなった、案内メールを出さなくなった……。しかし、一方で、今後誰が企画してくれる？何か釈然としない。事務局がナゴミ参加者に来てしまっただけ!?

まあ、楽しくハイキングが出来ればいいか。でもナゴミに参加しないメンバーもたまに企画・まとめ役をやってくれるよね。

11月9日(水)、9:30 2台の車で、「名栗げんきプラザ」に集合する。窓口で行き先・駐車する車の特徴・ナンバーを記帳して、手洗いを済ませ、いざ出発。前回は、2021年4月、ほぼコースタイム通りの1時間で登りきる。今回は全員が1年半歳を取ったので、計画書では、余裕を見て1時間半と見積もったが、なんと去年と同じ1時間で登ってしまった。みんな歳を取り忘れたのか。

頂上付近に少し広い場所がある。まだ、11時前、誰もいない。しめしめと食事場所を確保する。目の前の陽の当たったモミジの透明感のある赤色が美しい。また青空を背景に補色の黄色の「広葉樹（＝名前を忘れた、先生ごめん）」の葉が素晴らしい。

暖かいコーヒーをご馳走になる。筆者はここのところ「カップ」だけ持ち歩いている。図々しくもあるが、これでも一応の配慮はしているつもり。予定より早く登頂し時間があるから、ゆっくりしようとするも、そのうち太陽が雲に隠れ肌寒くなる。少し早いが出発。下山時の事故が一番多い。このことを、惹起させる出来事があったばかりだ。慎重に下山する。予定より早く、1時間弱で山伏峠に到着。12時30分、車道を歩いて出発点の名栗げんきプラザに帰着。下山の届けをして、帰路に就くも、まだ時間も体力も余裕がある。そこで、東郷神社に寄ることになった。ここは紅葉と長い階段が有名だ。「大砲」までたどり着いて、一番上まで来たと思って戻ることにする。ところが、麓で、神社の案内図を見ると……。実は我々が登った「大砲」よりもっと上に奥ノ院への階段があった。今更、引き返せない。うーん。昔、古典の教科書にあった、仁和寺にある法師「少しの事にも先達はあらまほしきことなり。」をふいに思い出す。

また行こうね。次回の日程・行き先は未定。

以上







